

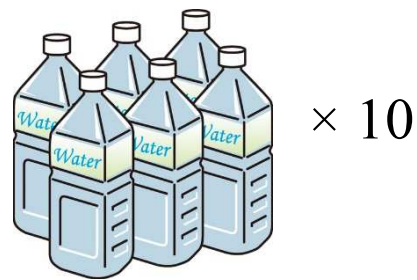
透析に使われる水

透析治療では 「透析液」という液が必要です。

この透析液は 水道水を処理した水と透析用の粉末を混合して作られます。

4時間の透析1人分では $500\text{ml}/\text{分} \times 240\text{分} = \underline{120\ell}$ が使われます。

これは 2ℓのペットボトルで60本分



家庭用バスタブの半分位の量になります。

とてもたくさんの量ですね。

日頃 透析治療をされている方々は 水分管理に留意されています。

中には 一日の水分量を 500mlに制限されている方もいらっしゃいます。

その量と比べると より一層 120ℓの多さを感じてもらえるのでは

ないでしょうか？

災害時には 停電や断水などで 十分な透析はできないことが予想されます。

イザという時のためにも 日頃から水分管理に気をつけて 災害伝言ダイヤルなどの

連絡手段を確認しておきましょう。



透析室

尿検査は健康診断では必ず実施する検査です。また、受診時もたびたび実施します。

では、なぜ何回も尿検査をするのでしょうか？

「尿検査、されど尿検査」



◆尿検査でわかること

腎臓は細い血管の塊(糸球体)と尿が流れる細い管(尿細管)が集まった臓器で、血液の濃度や成分を一定に保つため、糸球体で血液中の老廃物や余分な塩分などを濾過し、体が必要としている物質を尿細管で再吸収したのち、尿として排泄します。ところが、通常では出てこないはずのたんぱく質や赤血球成分、糖などが漏れ出すことがあります。このような尿の異常をみるのが、腎臓はもちろん、腎臓以外の臓器の異常を発見する糸口になるのです。



◆主な尿検査 【定性試験】

検査項目	疑われる病気	解説・注意
尿たんぱく	糸球体腎炎、腎硬化症などの腎疾患、糖尿病性腎症	尿中アルブミンを検出し、量によって(-)～(4+)に分類されます。いつでも(1+)以上なら、腎臓に原因がある可能性が高いです。発熱や運動などで一時的に陽性になることもあります。
尿糖	糖尿病、腎性糖尿、内分泌疾患や膵炎などに伴う二次性糖尿病	尿中のブドウ糖(グルコース)を検出するので糖尿病のスクリーニング検査として行われます。陽性の場合は必ず血糖などで確認します。食事の影響を受けて大きく変動します。
尿潜血	腎疾患(糸球体疾患、尿細管疾患)、尿路の結石や腫瘍、外傷など	尿中の赤血球あるいはヘモグロビン(赤血球の中身)の量で、(-)～(3+)に分類されます。腎糸球体から赤血球が漏れ出て陽性を示すことが多いのですが、尿路(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の結石や腫瘍による出血が原因のこともあります。

